

## 烏帽子山（909.6m）、玉置山（1076.8m）

期 日 : 2012年(H24)1月7~9日(土、日、月・祭) 前夜発2泊3日

山行地 : 和歌山県那智勝浦町、田辺市、奈良県十津川村

パーティー : 本部、浦和支部、合同山行 参加者43名

参加費 : 23,000円

行動記録

| 月日             | 行動コース、時間   |
|----------------|--|
| 1/6~7<br>(金~土) | 大宮6日21:00→用賀22:00→烏帽子山麓登山口7日6:15~7:05<br>歩行開始7:05...大杭峠8:45...陰陽の滝分岐9:30... <b>烏帽子山</b> 10:45~11:15 昼食...<br>烏帽子岩11:20~50...林道終点12:20...山の神13:10...二の滝13:40...青岸渡寺、<br>那智大社14:15~15:15→十津川温泉「一乃湯」17:30 (登山行動時間7時間10分)  |
| 1/8<br>(日)     | 宿発1班5:00、2班6:30 出発→玉置神社駐車場1班5:50、2班7:20<br>歩行開始2班7:30...玉置神社7:30~45... <b>玉置山</b> 8:05~10...玉置神社8:20...<br><b>玉置辻</b> 8:40... <b>大森山</b> 10:05~10... <b>五大尊岳</b> 、昼食11:20~45... <b>大黒天神岳</b> 13:05...<br>山在峠13:50~55... <b>七越峰</b> 15:10...備崎橋駐車場15:55<br>→熊野本宮大社16:10~17:10→伊勢志摩 YH21:30 (登山行動時間8時間25分) |
| 1/9<br>(月・祭)   | 伊勢志摩 YH6:25→伊勢神宮下宮7:00~7:30→内宮7:35~8:45→海老名 SA14:10→<br>用賀15:00→大宮15:45  |

### 1日目 烏帽子山~那智大社 (晴れ)

本年最初の山登り、新年山行に相応しく那智大社、熊野本宮大社、伊勢神宮と豪華な神社仏閣参拝付き。烏帽子山は関西百名山に名を連ね、新日本百名山にも選ばれている。

予定の陰陽の滝コースは、台風の影響で通行不能とのこと。急遽コース変更となる。しかし、変更されたコースもすぐに台風の爪痕が生々しく、何とも凄まじい自然の脅威に驚かされながら、ルートを探しつつ歩きます。

鬱蒼とした植林帯の道を登る。所々に崩れた場所があり、注意しながら歩く。道端には正月に良く活かされる千両が赤い実を付けている。大杭峠へ上がり、瓶子尾根を進む。この辺りからルートもはっきりしてきて、気持ちよく歩ける。しばらく登ると、陰陽の滝からの道と合わさり、高度も上がる。

当初予定の、大門坂から陰陽の滝を経て烏帽子岩に登る沢沿いのコースは、何度も渡渉しながら滝々を眺めて登る良さそうなコースなので、今回ちょっと残念。

尾根途中にある大きな瓶子岩に登り、振りかえると、熊野灘だろうか海が青く輝いているのが望める。

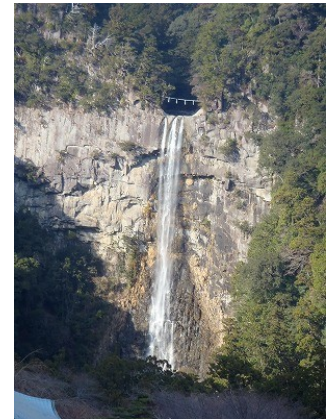
すぐ山頂へ。一等三角点はあるが眺望なし。ここで昼食を取る。薄っすらと雪のある山頂はさすがに寒く、食事時間も短めにして下山にかかる。



すぐにこの山のシンボル烏帽子岩にでる。その名の通り、まさに形が烏帽子そのもの。梯子の掛かる大きな岩に登り、南側の日当たりで日向ぼっこをすると、寒さが和らぐ。少しゆっくり休憩をとり、順に烏帽子岩のてっぺんへと登る。

烏帽子岩から30分ほど下るといきなり林道終点と出会うが、またすぐ谷に沿って山道へと入る。しかしこの沢も台風の影響で方々荒れていて、歩くのに思ったより時間がかかる。その後、沢の合流で水量が増した本谷に沿い二の滝へと下り、更に渡渉をしながら歩を進めるが、倒木に難儀させられる。沢沿いの所々に、那智山の歴史を感じさせる立派な大木が見られ目を、見張る。そのうち無断入山禁止の看板を見るようになるとすぐに那智大社が眼下に望めるようになり、無事下山となる。烏帽子山、今度はルートを変えまた歩きたい山だ。

下山後は那智大社、青岸渡寺、那智の大滝(一の滝)を参拝し、宿へ向かう。珍しく旅館泊でのんびりする。

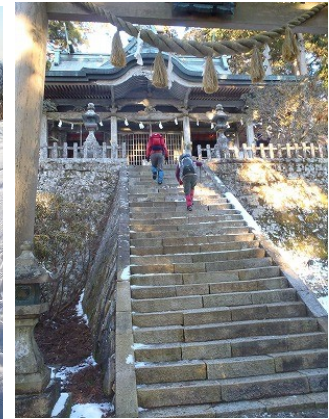


## 2日目 玉置山～熊野古道～七越峰～熊野本宮大社（晴れ）、二班

玉置山から熊野本宮のコースは大峰奥駈の最南端に位置する。玉置神社駐車場までマイクロバスで入れる。一度に全員乗れないため二班に分かれて行動する。

二班メンバーはもう明るくなった駐車場から、朝日の射す周りの山々を眺め、急ぎ一班の後を追う。まず世界遺産に登録されている玉置神社を参拝。杉の巨木に囲まれた玉置神社は、由緒ある霊峰に相応しく静かな佇まいをみせている。

神社の裏手から境内にあたる玉置山を往復する。急勾配のジグザグ道を20分程登ると簡単に山頂へ至る。山頂は一面の雪、狭いが眺望があり、朝日が雪面を照らし明るい。石柱に古びた鐘、三角点は雪に埋もれ頭だけ覗いている。登山者は我々だけでゆっくりしたいところだが、先が長いので小さな祠に参り、また玉置神社へと戻る。熊野本宮への奥駈道は神社の正面から続いている。



平坦な杉林を通り林道を横切る。もうこの辺には雪もない。いくつか小さなピークを超えると、いよいよ大森山の登りとなり再び雪道となる。結構登り甲斐のある傾斜をジグザグ進むが寒くて休憩が取れない。大森山のピークでようやく少休を取るが、風もありガタガタ震えながら行動食を口にする。長居は無用なので先を急ぐ。

冬枯れの樹林帯の道を下り、再び五大尊岳へ登り返す。まだ新しい不動明王が御わし、我々の行く先を見守っているかのようだ。ここは小さな尾根上の通過点のような場所だが、日当たりも良く、見晴らしも良いので昼食を取る。まだ今日の行程の半分くらいだろう。

五大尊岳から大きく下り、六道ノ辻から大黒天神岳へ再び登る。ルートは南に向かい寒さも和らいでいる。木々に囲まれた山頂は小さな看板と三角点でそれと分かるが、三角



点があるようなところとは思えない。

そしてここからは次第に熊野川に近づくように進む。道すがら時々大きく蛇行した熊野川の素晴らしい景色が望め励みとなる。

山在峠で林道と交差し再び杉の林立する尾根へ上がり吹越山、吹越峠へと歩む。途中には展望台があり、ゆったり流れる熊野川が一望でき、対岸の熊野本宮の大鳥居まではっきり見える。暖かい日だまりの好展望地でお茶などしたいところだが、一班を待たせてはいけないと、うしろ髪を惹かれながら歩き出す。少し歩くと前の方でなにやら賑やかな声がある。どうも一班に追いついたらしい。一時間半前に出発したパーティーに追いつくとは。一班は我々を待ちつつゆっくり展望台で休憩を楽しんだとのこと。

全員揃ったところでいよいよ今日の最終章七越峰を越える。小さい頂にお地藏様が鎮座され、西行法師の歌碑も立てられた公園のような一帯を經由、一気にバスの待つ熊野川河川へと下る。

下山後、世界遺産の熊野本宮大社を参拝し、長い一日の行程を終わる。

今日の宿の伊勢志摩 YH までは結構時間がかかる。途中スーパーで寄り道、買出し後宿舎に入る。

### **三日目 伊勢神宮（曇）**

伊勢神宮、下宮と内宮を参拝、早朝なのでまだ参拝者は少ないが、帰る頃にはさすがが多くなって来る。今日はここだけで一路東京へ戻る。

連休で混雑を心配したが、早い出発だったので順調に進み、4 時前には最終地大宮に着く。